

世界ジオパークネットワークに加盟するには?

渡辺 真人¹⁾

はじめに

世界ジオパークネットワーク(Global Geopark Network:以下GGNとする)に加盟するには,どんな手続きが必要であり,どんな基準でどんな審査が行われるか,を解説するのが本稿の目的である。GGNが発行しているガイドラインと自己評価票,および第2回国際ジオパーク会議の際に行われた「国際ジオパークネットワークのメンバーになるには?」というワークショップでGGN事務局から説明されたこと,質疑応答で議論されたこと,筆者がGGN事務局の担当者と話をして得た情報に基づいて解説する。筆者はGGNの運営に携わっているわけではなく,実際の加盟申請に当たっては,GGN事務局の方針を直接確認して事を進める必要があることをお断りする。なお,GGNのガイドラインと,申請の際に必要な自己評価票(オリジナルの英文版とその日本語訳)は,日本地質学会ジオパーク設立推進委員会のWebsite(<http://www.geosociety.jp/organization/geopark/>)からダウンロード可能である。

世界ジオパークネットワーク(GGN)とは?

まず,「ジオパーク」という枠組みについて整理する。ジオパークは世界遺産とは異なり,多国間の条約に基づくユネスコのプログラムではなく,ユネスコがジオパークを審査したり認可したりする仕組みはない。したがって,ジオパークを名乗ること自体にユネスコの審査は必要ない。審査があるのは,世界ジオパークネットワーク(GGN)への加盟についてである。ユネスコは2001年のユネスコ執行委員会決定に基づき,ジオパーク推進活動を支援しており,その支援のために設立されたのがGGNである。審査を受けてこの

GGNに加盟することにより,ユネスコのジオパーク推進支援の傘下に入ることになる。GGNは,加盟ジオパーク間でノウハウや情報の交換を行うことを目的とするネットワークである。加盟に際して審査があるので,GGNに加盟していること自体が,そのジオパークに含まれる地質遺産の価値やそこで行われている活動の質が高いことを保証している。また,ネットワーク加盟により得られるノウハウや情報が,ジオパークを向上させるのに役立っている。GGNには,ヨーロッパと中国を中心に現在50箇所のジオパークが加盟している。

世界ジオパークネットワークのガイドライン

GGNに加盟するジオパークがどのようなものであるべきかは,本特集号でPatzak氏とMissotten氏により解説されているのでそれも参照されたい。GGNは加盟を希望するジオパークが満たすべき基準をガイドラインとして公表している。そのガイドラインには,以下のような点が記述されている。

- 1) 規模と環境: 明瞭に定められた区画と十分な面積を持つこと。単に地質学的に重要なサイトを集めただけでなく,生態系との関わりや,地域の歴史・文化・伝統との関わりを示すことが重要。
- 2) 運営及び地域との関わり: しっかりとした運営組織と運営計画があること。運営組織には公的機関,地域社会,会社などの民間団体,研究教育機関などが参加すること。地域住民と地方自治体を中心として作成された,地域の文化的価値観や伝統を尊重した運営計画に基づき運営されること。地域の景観を守りながら,持続的な形で開発が行われること。
- 3) 経済開発: 地域の経済活動の活性化と持続可能

キーワード: 世界ジオパークネットワーク(GGN), ガイドライン, 加盟申請, 地質遺産

1) 産総研 地質情報研究部門

な開発がジオパークの主要戦略目標の一つ。地質遺産を観光する「ジオツーリズム」を通じて、環境的に持続可能な社会経済開発を育成し、地場産業を活性化する。

- 4) 教育：博物館、自然観察路、自然観察センターを整備し、ガイドブックや地図を発行し、ガイドを養成してガイド付きツアーを行うことにより、多くの訪問者を受け入れ、地球科学や地球環境に関する知識を社会に伝える。
- 5) 保護：ジオパークのある国・地域の法と規制、および伝統に基づいて地質遺産を保護する。
- 6) 世界的ネットワーク：世界的ネットワークの一員として地質遺産を守り、地球科学に対する世界の理解を深め、社会の持続的発展を確かなものとし、さらにはネットワークの活動に貢献する。

申請書類の構成と自己評価票

GGN加盟の際の審査では、前述のガイドラインに基づき審査が行われる。審査は、加盟を希望するジオパークが準備する申請書と、事務局から派遣される専門家による現地調査に基づき行われる。ガイドラインによれば、申請書には地域の記載(地質学、地理学、生物学、考古学、経済学などの観点から)、運営計画と運営組織、地域開発の計画、加盟申請の背景と理由を記載することとなっており、さらにGGN所定の書式による自己評価票を添付することとなっている。

実際の申請書の例として、2006年にGGNに加盟したノルウェーのGea Norvegica Geoparkの申請書入手することができた。30ページ以上に及ぶカラー印刷の冊子となっており、その内容は以下の通りである。

- ・ジオパークの範囲(約3,000km²)を示す地図と、地域の地形、人口、産業の概説(2ページ)
- ・運営体制(理事会と運営組織が具体的に記載されている)、予算(複数の自治体の連合で2011年まで毎年56万ユーロを支出すること)の説明(2ページ)
- ・ジオパーク内の地質の解説(きれいな写真と図面入り：12ページ)
- ・地質学的に重要な地点169箇所のリストと、その世界的に見た重要性、保護の状況(6ページ)

- ・地質学に関係しないジオパーク内の見所(2ページ)
- ・ネットワーク加盟にあたっての所信表明、持続的な地域経済発展の可能性に関する分析、ジオパークとしての教育・研究活動の実績と計画、地質遺産の保護と活用に関する方針、そしてそれらを踏まえたネットワーク加盟の宣言(6ページ)
- ・地域の経済活動、ジオパークのインフラとなる施設とサポートする人材、今後の整備計画(4ページ)
 - さらに添付書類として、自治体間の合意書、ジオパーク地域内のこれまでの地質学的研究の文献リスト、ジオパーク地域に関して一般向けに出版されている地質の解説書・地図などのリストが別冊として添えられている。詳細については筆者までお問い合わせいただきたい。

この申請書に加えて、GGN発行の自己評価票を提出しなくてはならない。この自己評価票の評価項目は、地質と景観、管理組織、情報と環境教育、ジオツーリズム、地域経済の将来性の5つの分野に関して、細かな設問に答えて点数を記入していった自己採点のようにになっている。評価項目は多岐にわたっており、具体的な項目については上述のwebsiteから自己評価票をダウンロードして見ていただきたい。自己採点の正当性を保証するために、自己評価票とともに、その自己採点を裏付ける文書を添付しなくてはならない。たとえば、「申請地域には地質年代区分上のいくつの紀が地質体として見られますか」という項目に「6」と答えた場合、それを裏付ける地質図を添付する、あるいは、運営組織に関する設問に関しては、運営組織の組織図と担当者の名簿を添える、といった具合である。

どんなことが審査の対象となるのか

筆者は2006年9月に行われた第2回国際ジオパーク会議の際に行われた、「国際ジオパークネットワークのメンバーになるには？」と題するワークショップに参加した。そこではGGN事務局から申請書に書くべき事柄、審査の際に何が重要か、といった点が解説され、質疑応答が行われた。ガイドラインに示された基準を満たすことは当然として、次のような点が審査において重要であると事務局から説明があった。

- ・重要な地質遺産が複数あり、見学路や看板、博物

館やビジターセンターが整備されていること、地質遺産の保護が充分行われていること。

- ・ ジオパークとして行うべき活動、たとえば教育・普及活動やパンフレット・地図の出版などが申請の時点ですすでに行われていること(具体的な活動を示す)。
- ・ しっかりした管理体制と運営組織、経済的な基盤があること。具体的には、専任の職員がいる事務局、科学・教育活動を行える人材とそれを支える体制、地方自治体や財団からの資金援助など安定した経済基盤があること。
- ・ ジオパークがある地域が、持続的に経済発展できるような戦略があること。観光業者との連携は行われているか、マーケティングは充分か、地場産業にフィードバックがあるか、など。
- ・ ジオパークネットワークに何らかの貢献をしようという意思があるかどうか。どのような貢献が可能か。ジオパークの広さはどのくらいが適当であるか、という点について疑問を持つジオパーク担当者が多く、その点について議論があったが、事務局としては、ガイドラインに沿った活動ができ、訪問者を引きつけられる魅力のある地質遺産があれば広さは特に問題にならないとの見解であった。

現在一つもジオパークがない国は一年に三つまでの申請を、既にある国は年に二つまでの申請が同時に可能である。審査に当たっては二人の審査員が現地を見に来る費用を負担しなくてはならない。審査には最低でも10ヶ月程度かかるとのことである。

加盟後の義務

ネットワークに加盟したジオパークは、4年に一度その後の活動状況をGGNに報告し審査を受ける必要がある。また、毎年行われるGGNの会議に二人の代表(一人は地球科学者、もう一人は地域経済や開発の専門家)を出し、自分たちの活動を報告して議論に参加することにより、GGNとその傘下のジオパークの活動の向上に貢献しなくてはならない。筆者の参加した国際ジオパーク会議においても、各国のジオパークからの参加者が自分たちの活動を発表しており、少人数のグループに分かれて行うワークショップでは、活発な議論が行われていた。ワークショップではジオパークの中で化石を売ることの是非、ガイドの教

育をどのように行うか、ジオパークのマーケティングをどう行うか、といったテーマで議論が行われ、会議の最後にその成果が報告された。このような会議で、各ジオパークの経験やノウハウを積極的に他のジオパークに伝えることが、GGNに対する貢献として再審査の際に評価される。

おわりに

GGNに日本のジオパークはまだ一つも加盟していない。GGNはこれから200程度のジオパークをさらに加盟させたいと考えているようであり、日本からも10箇所以上のジオパークの加盟が充分可能であろう。そのためには日本国内でのジオパーク活動が活発となり、ジオパークが一般に広く親しまれることが必要である。GGN加盟はジオパークの知名度を高め、自身を向上させるための手段であって目的ではない。

来年2008年は国連国際惑星地球年の中心年であり、来年に日本からの最初の加盟申請を出したい、と日本のジオパーク関係者は考えている。加盟申請を円滑に進めるには、申請を希望するジオパークの運営の中心となる人が、GGN加盟ジオパークの運営担当者やGGN事務局に直接コンタクトを取り、情報交換をすることが大事である。すでに加盟したジオパークの運営担当者からはさまざまなノウハウが得られる。GGN事務局担当者とは話をすることにより審査に関する様々な情報が得られ、申請するジオパークについての事務局側の理解も深まる。この結果、審査が円滑に進み、審査期間の短縮が期待できる。2007年後半以降、以下のようなジオパーク関連の国際会議が予定されている。2007年9月にスコットランドでヨーロッパジオパークネットワーク(EGN)の会議、同じく9月にギリシャのレスボス島でワークショップ、2008年6月にはドイツで第三回ユネスコジオパーク国際会議が行われる。各地でジオパークを推進されている方は、ジオパークの国際会議・シンポジウムにぜひ参加していただきたいと考える。百聞は一見に如かず。ぜひ世界のジオパーク推進活動の熱気を感じていただきたい。

WATANABE Mahito (2007) : How to become a member of Global Geopark Network.

<受付:2007年4月2日>